

神の祝福がありますように！

この手紙の文末に書かれている名前は、自由に変えてくださって結構です。（例として私の名前を入れておきました。）

この手紙を聖書と一緒に置いておいても、あるいは、文面に福音のメッセージも入れておきましたので、この手紙だけを置いておいても良いでしょう。携挙の前に、お友達やご家族にメールで送信したり、フェイスブックなどのソーシャルメディアに投稿するのも良いでしょう。

人は、あなたのことを狂っていると思うかも知れません。しかし、イエス様の兄弟たちでさえ、彼が狂っていると考え、彼のことをバカにしました。（マルコ 3:21、ヨハネ 7:5）イエス様のために狂っていると思われることは、とてつもない祝福です。

よみがえりの後、イエス様の兄弟たちは屋上の間にいて、彼を神として礼拝していました。なので、明らかに、狂っていると思っていた、彼に対する彼らの考え方は変わったようです。（使徒の働き 1:14）ですから、携挙のあとも、ものごとは変わります。

もちろん、神には、私たちの助けなど一切不要です。神は、彼が救おうと思う者をお救いになります。しかし、神は私たちが祝福したいと願っておられ、私たちに、神の祝福を受ける素晴らしい機会を与えてくださるのです。私たちには、主の主、王の王のしもべとなるような資格すらありません。しかし神の驚くばかりの恵みとあわれみによって、彼は私たちに、このスペシャルな特権を与えてくださったのです。イエス様、ハレルヤ！全てのほまれと栄光が、イエス様にありますように！

この後に続く手紙は、一見長文にも思えます。当初は、短くまとめるつもりでしたが、説明すべきことがあまりにもたくさんあるのです。事実、大患難時代、人々は、死刑も含めた恐ろしい苦しみの 7 年間を過ごす事を考えてみると、これだけでも足りないかも知れません。

可能であれば、これを出来るだけ多くプリントアウトしてください。そして可能であれば、これを防水の袋（ジップロック）に入れておいてください。この手紙が発見されるまで、どれくらい時間がかかるか、私たちには分かりませんから。

最後に最も大切な事、きっと皆さんも賛成して下さると思いますが、どうか、この手紙に対してお祈りしてください。

第一コリント人への手紙 3:7 で、パウロが次のように説明しています。

**「それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。」**

もし、私達の働きの中に神が含まれていなければ、私達の行いは何も達成出来ません。

- 1) 私達が残すこの手紙を、神が祝福して下さるよう、へりくだって神に願いましょう。
- 2) この手紙が、誰であれ、神の望んでおられる人に届くように祈りましょう。
- 3) この手紙の文字、文章の一つ一つを、神がイエス様の血潮で覆って下さるように、そしてこれを通して、神の贖いのパワーが与えられるよう祈りましょう。  
神が、主の栄光の為に、この手紙を用いて人々を救って下さるように祈りましょう！
- 4) また、携挙に取り残された後、イエス様を知り、愛するようになった人々が、どんな苦しみにあっても主のあわれみによって、イエス様に対する信仰を貫くことが出来るように、どうかお祈りください。
- 5) さらに、敵がこの手紙を見つけて破棄してしまわないように、神が、敵の目からこの手紙を隠して下さるようにも、祈らなければなりません。

この手紙を、公園や公園のベンチの下、その他、公共の場にも置いておく事をお勧めします。手紙をどこに置くべきか、神に尋ねてください。必ず、神が正しく導いて下さると信じています。

God bless you!

マイケル